

## ウラジオストク滞在に関する報告について（2016年2月分）

### 1. 2月の実施事項及び行事等について

---

- 8日 沿海地方政府にて行政研修開始（3月11日まで）
- 19日 漂着物アート制作体験会
- 23日 「祖国英雄の日」（休日）

### 2. ロシア語学校について

---

ロシア語学校の授業は先月に続き「文法」「会話」「ビデオ」「読解」「発音」の5科目で行われています。現在、私のクラスはアメリカ人2人、韓国人5人、中国人4人、日本人2人の計13人となっています。2月下旬で担当教師の変更があり、授業内容を変更してもよいとのことで、クラス内で相談した上で担当教員に「ビデオ」ではなく「文化・歴史」といった科目の実施を希望することになりました。このような要望にも柔軟に応じてもらえるようです。

また、引き続き個人授業を受講しており、週3回「文法」「読解」「手紙」「聞き取り」などの項目を重点的に学習しています。

ロシア語学校自体はいつでも入学して学ぶことができますが、3月頃から新しいクラスが設置されるそうです。そのため担当教師の変更が多くなり、各クラスの雰囲気も少し変わっているようです。

### 3. ウラジオストクの状況について

---

#### ・天候

ウラジオストク市の2月はまだ寒い時期が続いています。外の気温は氷点下が続く、道が凍っていることが多いです。また、時々雪が多く降るなどまだまだ外を歩く時に快適だと感じる日は遠いようです。ただ、2月下旬に入り、気温が氷点下の中でも0℃に近づく日も出てきており、少しずつですが春が近づいているのかなと思えます。しかし、ロシア人が言うには、3月10日前後に例年まとまった雪が降り、それが終わると本格的に春が感じられるそうです。

#### ・街の様子

2月に入り、さすがにクリスマスの雰囲気はもうありません。冬はあまり多くイベントもあるわけではないので、街自体は少し静かな感じがします。また、雪、氷の撤去のために鍬のようなもので砕く作業が多いためか、コンクリート

が傷み道路や歩道の状況が少し悪くなっているように思われます。今後、雪が完全に溶けた時に補修を行うのかもしれませんが、傷んだ足場につまずくこともあるので注意が必要になってきます。

#### 4. 祖国英雄の日について

---

2月23日は「祖国英雄の日」として祝日となります。今年は火曜日ということもあり、その前の土曜日が労働日で、月曜日が振替休日となり三連休でした。もともとはソ連陸軍とソ連海軍の日とされていたそうで、ロシア人の中でも「軍人のための日」と答える人もいました。例年、庁舎前ではパレードが行われるそうですが、春や夏に行われるものと違い、とても寒い中で行われるためか、あまり人々の関心が高いようには見えませんでした。

さて、現在は「祖国英雄の日」という名前ではあるのですが、一般的には「男性の日」と解釈されているようです。これは3月8日が「国際女性デー」として女性のための祝日があるため、これに対する「男性の日」という意味合いだと思われます。

あるロシア人男性は23日の祝日に家族サービスをするのだとはりきっており、何かをしてもらうというような受動的なイベントではなく、サービスを自ら行うという能動的なイベントに見えました。ちなみに、バレンタインデーも日本のように女性が男性へチョコレートを渡すということではなく、男性が女性にプレゼントを渡すそうです。また、3月8日の「国際女性デー」には母親や大切な女性に花束やプレゼントを贈るそうで、ロシアの男性にとってこの季節はとても大変な季節なのだなど実感しました。

#### 5. 沿海地方政府での行政研修について

---

ロシア沿海地方に派遣される富山県職員は2月から3月までの期間、現地の地方政府にて研修を行います。今回も2月8日から3月11日までの期間で沿海地方政府のいくつかの機関で研修を受けることとなりました。

ロシア沿海地方の行政組織は37の局に分かれており、それぞれの局の下にくつもの課が設置されています。1つの局では多ければ30人ほどの人数になるそうで、課は大体3~5人ほどで構成されています。今回の私の研修先は国際協力局、観光局、環境資源局、スポーツ局、投資局の5つになります。行政府は

基本的には中央広場のとなりにある近代的な建物になりますが、いくつかの組織は異なる建物で業務を行っています。



写真①：沿海地方政府庁舎

政府の基本的な勤務時間は9時から18時までとなり、休憩は13時から14時となります。日本の行政機関のように大部屋に集まるわけではなく、課ごとに3～4人用の部屋に分かれて業務を行います。

実際に日本の行政との仕事やシステムの違いなど多くあるのですが、やはり異動の少なさには驚きました。日本の場合は公務員だけでなく一般企業においても異動はよくありえると思いますが、ロシアでは一度特定の業務に就くと長くその仕事をするようです。そのためか、専門性という言葉をよく耳にしました。研修先では「どんな分野のスペシャリストですか？」と聞かれる事が多く、「ロシア関係が担当業務です」と答えると、さらに「その中でもどんなスペシャリストですか？法律ですか？統計ですか？」など必ず聞かれます。長く特定の業務を行うためか、行政事務職員でありながら、こういった専門家として仕事に取り組むということも日本とは異なる部分だと思いました。

## 6. 「漂着物アート制作体験会」について

2月19日（金）にウラジオストク国立経済サービス大学付属校において、漂着ゴミを使ったアート制作体験会が行われました。これは沿海地方政府の天然資源・環境保全局と、富山県の（公財）環日本海環境協力センター（NPEC）が共同で主催したイベントです。両機関は日本海の海洋環境に関する啓発活動や環境保全活動などを積極的に行っています。

今回は、小・中学生が対象となり、児童・生徒ら約20名が、日本海の環境保全に関して日露双方からプレゼンテーション（テーマは「海洋ゴミ対策」等）を聞いたあと、実際に様々なゴミを使ってアート作品を作りました。子ども達はお互いに話し合いながら、自分たちの作品にいろんなメッセージを込めて作り上げていき、出来上がった作品はどれも目を引くものばかりでした。

「漂着物アート制作体験会」にはマスコミの取材もあり、環境問題への関心の高さがうかがえました。



写真②：子ども達の作品作りの様子